

平成 22(2010)年エイズ発生動向 - 概要 -

厚生労働省エイズ動向委員会

エイズ動向委員会は、3 ヶ月ごとに委員会を開催し、都道府県等からの報告に基づき患者発生動向を把握し公表している。平成 22(2010)年 1 年間の発生動向について概要を取りまとめたので報告する。本年は HIV 感染者が 1075 件、エイズ患者 469 件と、新規報告件数は 1544 件で、前年より 92 件の増加であった。

1. 結果

(1)HIV 感染者の報告数

平成 22(2010)年は 1075 件と、前年(1021 件)より 54 件増加し、2008 年(1126 件)、2007 年(1082 件)に次ぐ過去 3 位の報告数であった(図 1)。最近 5 年間の HIV 感染者報告数は 5256 件で、累計の 41.6%を占めている。日本国籍例は 997 件で、このうち男性が 956 件と大半を占めており、前年比では 62 件増え、日本国籍女性例は 41 件で前年より 3 件増えた。外国国籍例は 78 件で、このうち男性が 59 件で前年より 12 件減り、女性が 19 件で前年より 1 件増えた。経年変化としては、日本国籍男性で増加傾向がみられており、日本国籍女性、外国国籍男性及び女性ではほぼ横ばいの状況にある(図 2)。

(2)AIDS 患者の報告数

平成 22(2010)年は 469 件と、前年より 38 件増加し、過去最多であった(図 1)。最近 5 年間の AIDS 患者報告数は 2155 件で、累計の 37.2%を占めている。日本国籍例は 436 件で、このうち男性が 421 件と大半を占めており、前年比では 35 件増え、日本国籍女性は前年と同数の 15 件であった。外国国籍例は 33 件で、このうち男性が 29 件で前年より 8 件増え、女性は 4 件で前年より 5 件減った。経年変化としては、HIV 感染者と同様に、日本国籍男性例で増加が続き、他の国籍・性別報告例はほぼ横ばいの状況にある(図 3)。

図1. HIV感染者およびAIDS患者の年次推移

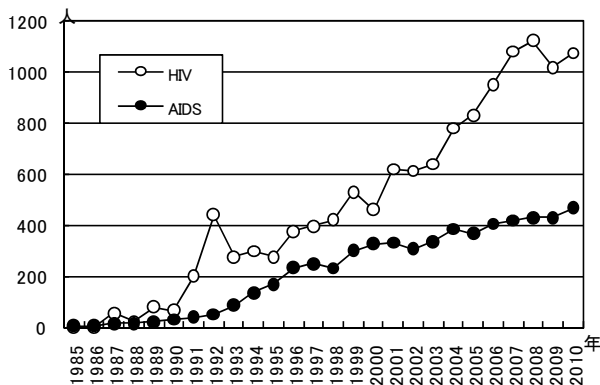


図2. HIV感染者の国籍別、性別年次推移

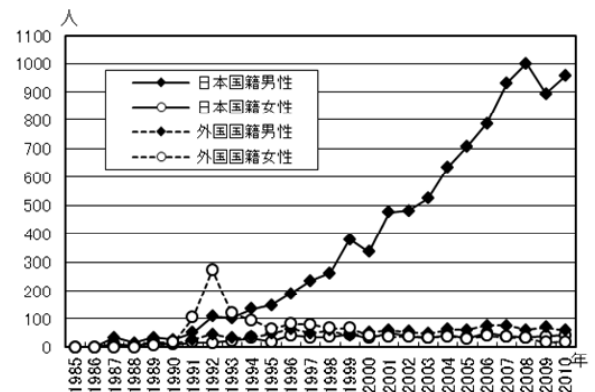


図3. AIDS患者報告数の国籍別、性別年次推移

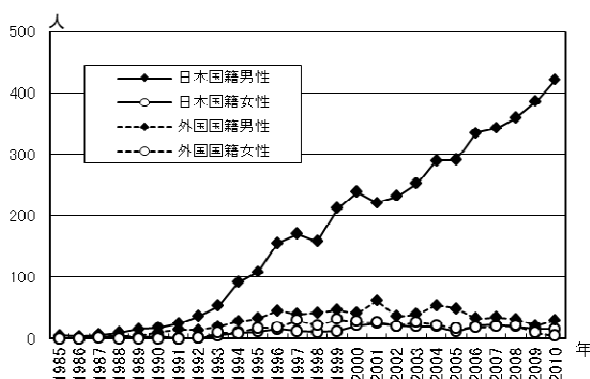
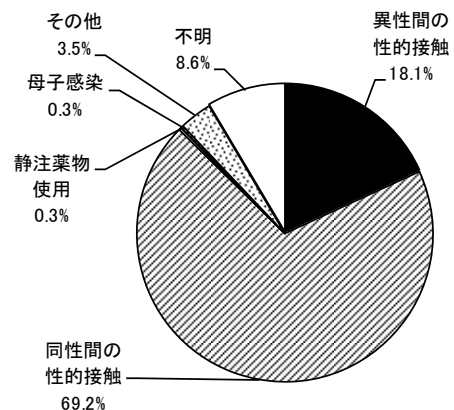


図4. 2010年に報告されたHIV感染者の感染経路別内訳



(3)感染経路

HIV 感染者

本年の HIV 感染者報告例の感染経路は、異性間の性的接触が 195 件(18.1%)、同性間の性的接触が 744 件(69.2%)で、性的接触によるものは合わせて 939 件(87.3%)を占めた。また、母子感染が 4 年ぶりに 3 件報告された(図 4)。

日本国籍例では、男性同性間の性的接触は 713 件で、前年(659 件)に比べて 54 件増え、2008 年(743 件)に次いで多かった。また、異性間の性的接触は男性が 142 件(前年 148 件)、女性が 28 件(前年 32 件)で、経年的には増減はあるものの横ばいの推移である(図 5、6)。

本年の日本国籍 HIV 感染者のうち、男性同性間の性的接触による感染は 15-24 歳の年齢層では 80.4% (図 7)、25-34 歳では 76.1%、35-49 歳では 71.9%を占め、50 歳以上でも 51.1%と過半数を占めた。累計でも 44 歳以下では男性同性間の性的接触による感染が半数を超えている。また、15-19 歳の年齢層では男性同性間の性的接触による感染が大半を占める一方、女性異性間の性的接触の占める割合が他の年齢層と異なり大きい(図 8)。

図5. 日本国籍男性HIV感染者の感染経路別・年次推移
(*静脈薬物使用、母子感染、その他は除く)

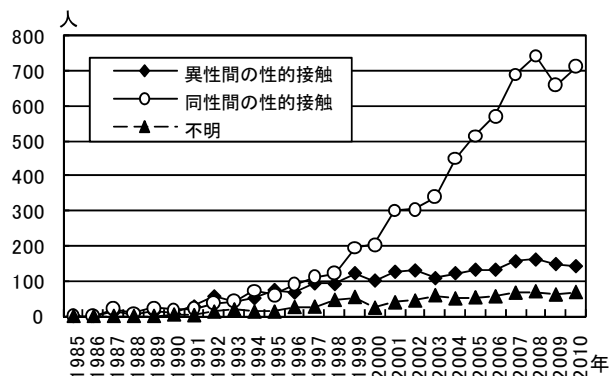


図6. 日本国籍女性HIV感染者の感染経路別・年次推移
(*静脈薬物使用、母子感染、その他は除く)

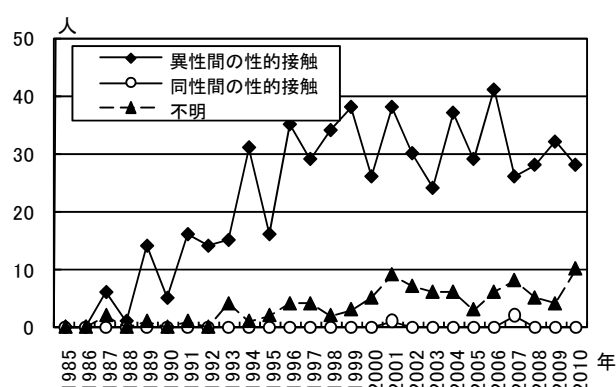


図7. 日本国籍HIV感染者[15-24歳]の性別、感染経路別の年次推移

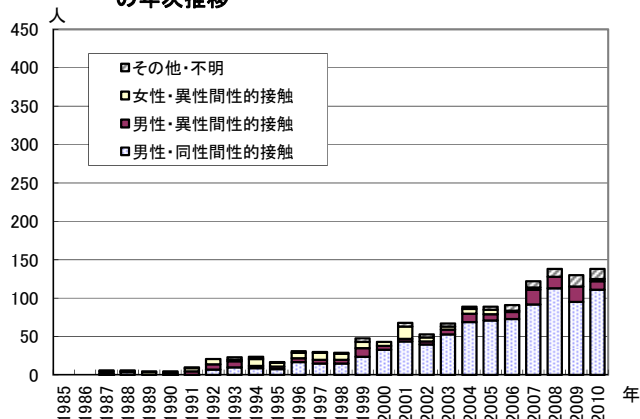
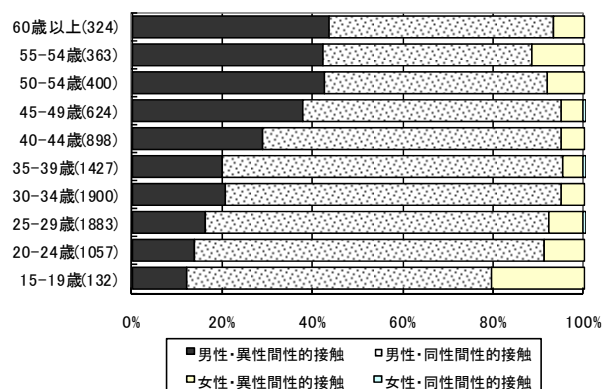


図8. 日本国籍HIV感染者の年齢別、性別・感染経路別内訳
(累計、*性的接触に限る、年齢不明を除く)



AIDS 患者

本年の AIDS 患者報告例の感染経路は、異性間の性的接触による感染が 127 件(27.1%)、同性間の性的接触による感染が 230 件(49.0%)で、性的接触による感染は合わせて 357 件(76.1%)を占めた(図 9)。

日本国籍男性例の感染経路を見ると、同性間の性的接触は 224 件(前年 205 件)で 19 件増加し、増加が続いている。異性間の性的接触は 104 件(前年 108 件)で 2000 年以降ほぼ横ばいで推移している(図 10)。年齢階級別では、日本国籍 AIDS 患者は 35-49 歳での増加が著しい(図 11)。

なお、HIV 感染者、AIDS 患者ともに、静注薬物使用や母子感染によるものはいずれも 1%未満にとどまっている(図 4、9)。

図9. 2010年に報告されたAIDS患者の感染経路別内訳

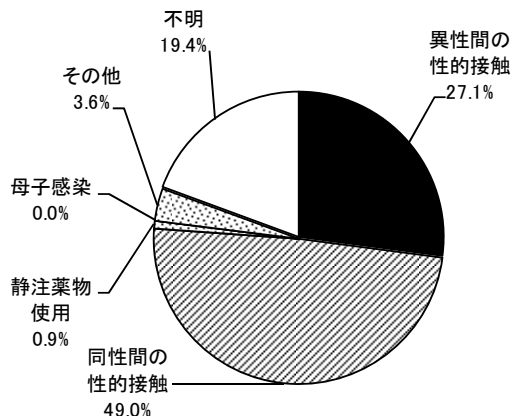


図10 日本国籍男性AIDS患者の感染経路別・年次推移

(*静脈薬物使用、母子感染、その他は除く)

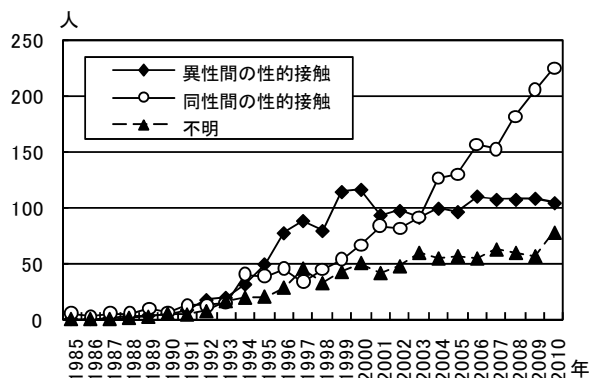


図11. 日本国籍AIDS患者[35-49歳]の性別、感染経路別の年次推移

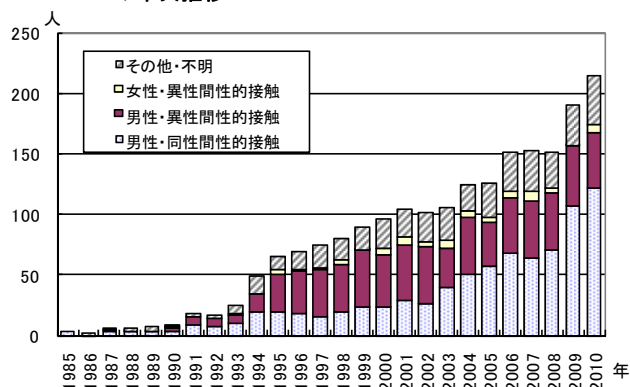
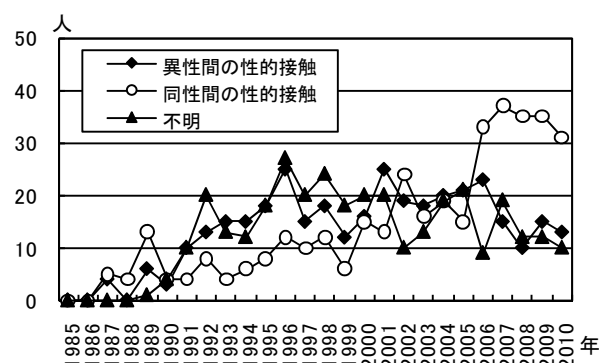


図12. 外国国籍男性HIV感染者の感染経路別・年次推移

(*静脈薬物使用、母子感染、その他は除く)



(4)外国国籍報告

本年の外国国籍の報告例は、HIV 感染者が 78 件(前年 89 件)、AIDS 患者では 33 件(前年 30 件)であった。HIV 感染者、AIDS 患者共に異性間の性的接触による感染例は増減を繰り返しつつほぼ横ばいの状況にある。また、男性同性間の性的接触による HIV 感染者は、2006 年に大きく増加した以降、ほぼ横ばいの状況が続いている(図 12)。推定感染地域では、男性 HIV 感染者での国内感染の占める割合が増えつつあり、外国国籍例についての予防とケアの対策も強化する必要がある。また、本年の外国国籍例(111 件)の報告地は、21 都府県で、東京都(41 件)、大阪府(11 件)、千葉県(9 件)、愛知県(9 件)、神奈川県(8 件)の順であった。

(5)推定される感染地域および報告地

HIV 感染者の推定感染地域は、全体の 85.0%(914 件)が国内感染で、日本国籍例(997 件)では 88.0%(877 件)を占めていた。AIDS 患者の推定感染地域は、全体の 75.5%(354 件)が国内感染で、日本国籍例(436 件)では 79.4%(346 件)を占めている。

報告地では、HIV 感染者は東京都を含む関東・甲信越からの報告が多く、累計では 62.4%を占める。同地域の報告は 1996 年以降増加傾向にあり、東京都からの報告は、本年は 400 件(前年 374 件)と 26 件の増加であったが、東京都を除く関東・甲信越は減少した。近畿からの報告数は 1998 年以降増加が続き、特に大阪府からの報告の増加が顕著で前年(171 件)に比して 27 件の増加(198 件)であった。また、2001 年以降増加傾向がみられた東海は 2008 年、2009 年に減少したが、本年は 124 件と前年比 44 件の増加であった。九州も増加傾向にあったが、本年は 62 件(前年 83 件)と減少した。他の地域では、中国・四国は増加傾向がみられ、北海道・東北、北陸の 2 地域はほぼ横ばいで推移している(図 13)。AIDS 患者の報告地別分布は、累計では HIV 感染者とほぼ同様で、東京都を含む関東・甲信越(59.9%)に集中している。東京都は 107 件と過去最高であったが、2000 年以降は 100 件前後の推移である。東京都を除く関東・甲信越では減少傾向が見られる。東海は前年に比し増加し、特に愛知県が顕著であった。増加傾向にあった近畿及び九州はほぼ横ばいにとどまった。中国・四国は増加傾向、北海道・東北および北陸地域はほぼ横ばいの推移である(図 14)。

図13. HIV感染者の報告地(ブロック)別年次推移

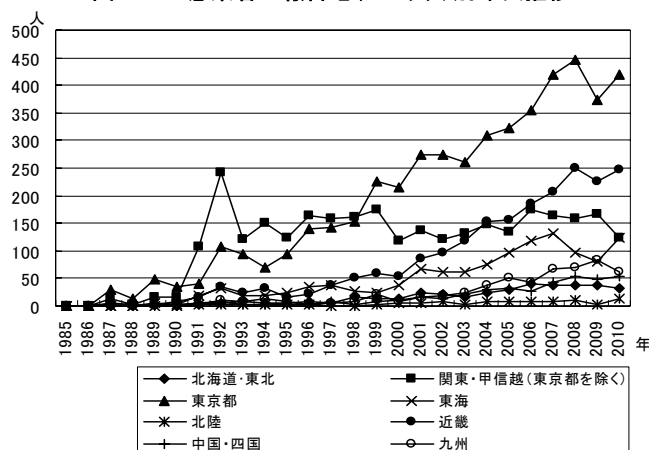
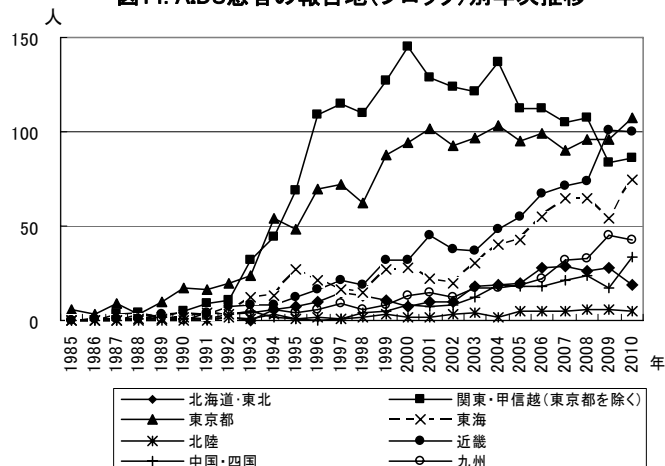


図14. AIDS患者の報告地(ブロック)別年次推移



本年報告数の上位10位は、HIV感染者では東京都、大阪府、愛知県、神奈川県、千葉県、福岡県、静岡県/兵庫県、埼玉県、広島県、AIDS患者では東京都、大阪府、愛知県、福岡県、神奈川県/千葉県、兵庫県、岡山県、埼玉県、茨城県/広島県であった(表)。なお、人口10万対では、HIV感染者では沖縄県、奈良県、石川県が、AIDS患者では鳥取県、徳島県、奈良県、福井県、栃木県が、上位に加わる。

2. まとめ

本年は、HIV感染者、AIDS患者の報告数はともに増加し、HIV感染者は2008年、2007年に次ぐ過去3位、AIDS患者は過去最多であった。依然として、日本国籍男性を中心に、国内での性的接触を推定感染経路とするHIV感染者、AIDS患者報告例の増加傾向が続いている。最近5年間の報告例の累計に占める割合は、HIV感染者では41.6%、AIDS患者では37.2%であり、近年の報告数の著しさがうかがえる。

感染経路では、HIV感染者の69.2%、AIDS患者の49.0%を同性間性的接触による感染例が占め、特に日本国籍男性の同性間性的接触による感染例の増加傾向が著しい。年齢では、HIV感染者は20歳代、30歳代に集中しており、AIDS患者では25歳以上に幅広く分布している。報告地では、HIV感染者は東京都、東海、北陸、近畿、中国・四国で増加し、AIDS患者は東京都を除く関東・甲信越、東京都、東海、中国・四国で増加がみられた。

本年は、HIV検査件数が103,007(前年122,493件)、相談件数が164,264件(前年193,271件)と、昨年の減少が改善しないまま、さらに減少した。HIV感染者、AIDS患者の発生動向は、早期検査を促進するとともに、陽性者への支援や医療・福祉等の整備の必要性を示している。

国においては、HIV感染の現状と正確な情報を広く国民に向けて広報し、また各自治体にあつては地域の発生状況に基づいたHIV感染対策に取り組むことが求められる。特に、男性同性間の性的接触による感染者や外国国籍の感染者については、エイズ予防指針を踏まえ、普及啓発・早期発見・早期治療に向けた対策、HIV陽性者への相談等の支援などの対策を進める必要がある。

表 HIV感染者・AIDS患者報告数
上位10位の自治体

a HIV感染者上位自治体

自治体	報告数	自治体	人口10万対*
1 東京都	400	1 東京都	3.039
2 大阪府	198	2 大阪府	2.234
3 愛知県	82	3 愛知県	1.107
4 神奈川県	55	4 沖縄県	0.790
5 千葉県	37	5 福岡県	0.690
6 福岡県	35	6 静岡県	0.664
7 静岡県	25	7 奈良県	0.643
7 兵庫県	25	8 広島県	0.629
8 埼玉県	23	9 神奈川県	0.608
9 広島県	18	10 石川県	0.598

b AIDS患者上位自治体

自治体	報告数	自治体	人口10万対*
1 東京都	107	1 東京都	0.813
2 大阪府	68	2 大阪府	0.767
3 愛知県	56	3 愛知県	0.756
4 福岡県	23	4 岡山県	0.566
5 神奈川県	22	5 鳥取県	0.510
5 千葉県	22	6 徳島県	0.509
6 兵庫県	16	7 奈良県	0.500
7 岡山県	11	8 福井県	0.496
8 埼玉県	10	9 福岡県	0.453
9 茨城県	9	10 栃木県	0.399
9 広島県	9		